

### (小規模企業景氣動向調査)

### 三重の景況

No.60

(平成24年1月～6月期)

# 三重県商工会議所連合会

## はじめに(総括)

三重県商工会議所連合会では、県下 12 商工会議所合同で、地域の小規模企業を対象とした景況調査を年2回実施しています。このたび平成 24 年上期の調査結果がまとまりましたのでご報告します。

三重県下の景気動向を示す指標である「現状」のD I 値は、平成 18 年下期の△37.9 を境に、平成 21 年上期の△73.3 まで悪化していました。今回の調査結果では、前々期(△54.2)、前期(△51.9)に引き続き、今期は△37.8 と 14.1 ポイント改善しており六期連続の回復が見て取れます。これは下降を始める直前の平成 18 年下期の水準まで回復しており、過去 10 年間で見た場合最も高い数値を示しています。

業種別のD I 値では、「現状」は全ての業種で改善が見られ、「今後の見通し」でも交通運輸業を除く業種で改善、または横ばいとなっています。また、地区別のD I 値でも、全ての地域で改善が見られました。

景気は回復に向かっていると思われますが、その回復状況は業種により差が見られます。製造業のD I 値は△29.3 (前回△43.3) で 14.0 ポイント回復しております。また、建設業は△25.0 (前回△50.1) で 25.1 ポイント回復、卸売業は△40.0 (前回△53.1) で 13.1 ポイント回復、小売業は△60.6 (△68.1) で 7.5 ポイント回復、飲食業は△48.9 (前回△61.0) で 12.1 ポイント回復、サービス業は△37.0 (前回△46.1) で 9.1 ポイント回復、交通運輸業で△21.7 (前回△62.7) で 41 ポイント回復しております。

回復幅にばらつきはあるものの、全業種・全地域で回復を示していることが景気の底上げ感を増しているものと見られます。

「売上状況」「利益状況」「販売条件」の項目については、前期より小幅な改善、または横ばいの数値を示しています。具体的には「売上状況」の項目について建設業△23.3 (前回△29.3)、飲食業△48.4 (前回△56.8) で小幅な改善があるのに留まっています。地区別では南勢地域で△36.0 (前回△44.9) と改善傾向が見られます。しかし円高や欧州危機などの懸念材料もあり、まだ先行きには不透明感があり注視が必要です。

また、景気の現状を計る一つの項目でもある設備投資については、「予定している」と回答した割合は、全体で 9.9% と前期 10.6% と比較して 0.7 ポイント減少しました。業種別では、交通運輸業が 13.7% と他の業種より高く、サービス業 12.7%、製造業 11.5%、小売業 8.7% と続いている。地区別では、伊賀地域が「予定している」とした割合が 11.8% で最も高くなっています。

借入の状況(難易度)については、全体では前期△5.3、今期△4.7 の横ばいで、地区別では伊賀地区で改善が見られました。

以上が本調査結果の概要です。本調査報告書が皆様の今後の企業経営の参考や小規模企業に対する皆様の更なる理解に資することになれば幸いに存じます。

最後に本調査の実施、作成にあたりましては、調査対象企業をはじめ関係各位の皆様にご協力を賜りましたことに対し厚く御礼申し上げます。

# もくじ

## (調査内容)

・調査要領	1
1. 現状と今後の見通し	4
現況D I 値の推移	6
2. 売上状況	8
3. 今後の売上見通し	8
4. 利益状況	9
5. 販売条件	9
6. 仕入条件	10
7. 設備投資	10
8. 資金繰り状況と今後の見通し	11
9. 借入状況	12
借入難易度D I 値の推移	13
10. 借入予定	14
11. 借入希望先	14
12. 借入金の使途予定	15
13. 経営上の問題点	15
・県下商工会議所地域における景況	17
・調査票（写し）	24

## 「三重の景況」調査要領

### 1. 調査目的

当調査は、三重県商工会議所連合会と県下12商工会議所【\*1】が、小規模企業【\*2】の動向を合同で調査することにより、県内小規模企業の景況把握を、地区別【\*3】に行い、合わせて各会議所地域ごとの景況を調査することにより、各商工会議所の事業活動の参考とすることを目的とする。

#### 【\*1】県下商工会議所

桑 名商工会議所	中小企業相談所
四日市商工会議所	中小企業相談所
鈴 鹿商工会議所	中小企業相談所
亀 山商工会議所	中小企業相談所
津 商工会議所	中小企業相談所
松 阪商工会議所	中小企業相談所
伊 勢商工会議所	中小企業相談所
鳥 羽商工会議所	中小企業相談所
上 野商工会議所	中小企業相談所
名 張商工会議所	中小企業相談所
尾 鷲商工会議所	中小企業相談所
熊 野商工会議所	中小企業相談所

#### 【\*2】小規模企業（中小企業基本法による）

卸売・小売・サービス業は従業員5人以下、製造・建設・その他の業種については20人以下。（会社の役員・家族従業員・パートを除く）

#### 【\*3】県内各地区は下記のとおり

北勢地区……桑名・四日市・鈴鹿・亀山  
中勢地区……津・松阪  
南勢地区……伊勢・鳥羽  
伊賀地区……上野・名張  
東紀州地区…尾鷲・熊野

## 2. 調査対象・回答状況

県下 12 会議所の会員企業中、任意抽出した小規模企業 10,232 社を対象とした。回答状況は、回答率 25.5%、回答企業 2,614 社であった。

## 3. 調査方法

FAX または郵送方法によるアンケート方式

## 4. 調査期間

平成 24 年 7 月 2 日～7 月 13 日

※当調査は、“1 月～6 月期”と“7 月～12 月期”の年 2 回、調査を実施している。

## 5. 集計方法

外部委託を行い、一括コンピュータ集計を行った。

## 6. 調査結果の取りまとめ

調査結果の取りまとめについては、津・松阪・上野・名張の 4 商工会議所が担当した。

なお、各商工会議所地域の景況は当該商工会議所が担当した。

### D I 値（ディフュージョン・インデックス）の見方について

D I とは景気動向を示す指標で、調査時点における企業の経済行動（強気や弱気など）を知るものであり、景気動向を客観的に判断する資料として幅広く使用されているもので、特に言及のない限り、「増加」「好転」したとする企業割合から、「減少」「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

### （注）図表中の数値表示について

図表中の数値については小数点以下第 2 柄で四捨五入をしているため、合計が 100.0 にならない場合があります。

業種別・地区別回答状況

単位:企業 ( ):% 上:業種別構成率 下:地区別構成率

業種	地区	北勢				中勢			南勢			伊賀			東紀州			計	
		桑名	四日市	鈴鹿	亀山	津	松阪	伊勢	鳥羽	上野	名張	尾鷲	熊野	計	尾鷲	熊野	計		
製造業	食 料	52	19	16	11	6	26	8	18	7	6	1	7	2	5	24	18	6	116
	せんい	10	3	3	2	2	5	3	2	1	1	0	6	5	1	0	0	0	22
	機 械	76	41	14	18	3	13	6	7	15	8	7	5	0	5	1	1	0	110
	金属製品	74	29	17	22	6	16	7	9	13	5	8	8	4	4	4	4	0	115
	木 材	23	10	5	4	4	18	1	17	7	4	3	2	1	1	14	13	1	64
	化 学	12	9	3	0	0	3	2	1	3	3	0	2	1	1	0	0	0	20
	窯 業	19	3	10	3	3	4	1	3	3	2	1	0	0	0	4	4	0	30
	印刷出版	11	4	2	4	1	17	10	7	6	5	1	4	0	4	3	1	2	41
	その 他	72	21	24	21	6	16	7	9	11	10	1	14	3	11	11	10	1	124
	計	349	139	94	85	31	118	45	73	66	44	22	48	16	32	61	51	10	642
		(27.5)					(21.4)			(19.3)			(20.3)			(28.2)			(24.6)
		(54.4)					(18.4)			(10.3)			(7.5)			(9.5)			(100.1)
卸売業	食 料	20	8	7	2	3	11	4	7	5	5	0	3	1	2	6	5	1	45
	せんい	6	2	3	1	0	5	4	1	5	4	1	4	1	3	1	1	0	21
	その 他	52	19	20	9	4	26	8	18	9	7	2	17	5	12	5	3	2	109
	(小 計)	78	29	30	12	7	42	16	26	19	16	3	24	7	17	12	9	3	175
	せんい	38	15	12	7	4	21	6	15	15	12	3	7	4	3	18	12	6	99
小売業	食 料	50	18	7	18	7	20	6	14	13	7	6	9	2	7	16	9	7	108
	日用品	12	8	0	3	1	3	1	2	2	2	0	1	1	0	2	1	1	20
	電気製品	23	7	3	10	3	9	1	8	8	8	0	6	2	4	7	4	3	53
	その 他	93	32	20	28	13	45	15	30	32	17	15	24	8	16	18	11	7	212
	(小 計)	216	80	42	66	28	98	29	69	70	46	24	47	17	30	61	37	24	492
非製造業	美容・理容	26	11	6	8	1	13	5	8	4	3	1	6	0	6	8	6	2	57
	ホテル旅館	4	1	0	3	0	2	1	1	8	2	6	1	0	1	4	2	2	19
	自動車整備	39	14	8	10	7	20	5	15	13	12	1	10	1	9	6	4	2	88
	不動産	37	14	17	2	4	17	9	8	8	7	1	9	0	9	0	0	0	71
	その 他	81	33	17	21	10	46	27	19	49	42	7	17	4	13	4	1	3	197
サービス業	(小 計)	187	73	48	44	22	98	47	51	82	66	16	43	5	38	22	13	9	432
	土木工事	68	17	14	27	10	21	10	11	7	2	5	9	2	7	7	7	0	112
	建築工事	105	32	31	39	3	44	23	21	14	10	4	19	6	13	14	11	3	196
	その 他	123	33	46	39	5	53	27	26	22	16	6	22	4	18	5	5	0	225
	(小 計)	296	82	91	105	18	118	60	58	43	28	15	50	12	38	26	23	3	533
建設業	飲 食 業	78	23	27	25	3	34	6	28	43	26	17	13	5	8	18	12	6	186
	交通運輸業	13	6	5	0	2	28	7	21	3	2	1	2	0	2	5	5	0	51
	計	868	293	243	252	80	418	165	253	260	184	76	179	46	133	144	99	45	1,869
		(68.5)					(75.7)			(76.0)			(75.5)			(66.7)			(71.5)
		(46.4)					(22.4)			(13.9)			(9.6)			(7.7)			(100.0)
その他	計	50	10	25	9	6	16	9	7	16	15	1	10	4	6	11	7	4	103
		(3.9)					(2.9)			(4.7)			(4.2)			(5.1)			(3.9)
		(48.5)					(15.5)			(15.5)			(9.7)			(10.7)			(100.0)
合計		1,267	442	362	346	117	552	219	333	342	243	99	237	66	171	216	157	59	2,614
		(100.0)					(100.0)			(100.0)			(9.1)			(100.0)			(100.2)
		(48.5)					(21.1)			(13.1)						(8.3)			

## 1. 現状と今後の見通し

### a) 現状（図-1・2・3参照）

全回答企業2,614事業所中、「良い・やや良い」が14.5%、「変わらない」が32.7%、「悪い・やや悪い」が52.3%で、D I値は△37.8（前回△51.9）となり前回より14.1ポイント改善している。

業種別のD I値では、交通運輸業△21.7、建設業△25.0、製造業△29.3、その他の業種△30.7、サービス業△37.0、卸売業△40.0、飲食業△48.9、小売業△60.6の順となっている。

地区別のD I値では、北勢地区△35.3、中勢地区△38.9、南勢地区△36.3、伊賀地区△41.4、東紀州地区△46.7であった。

図-1 現状について（業種別）

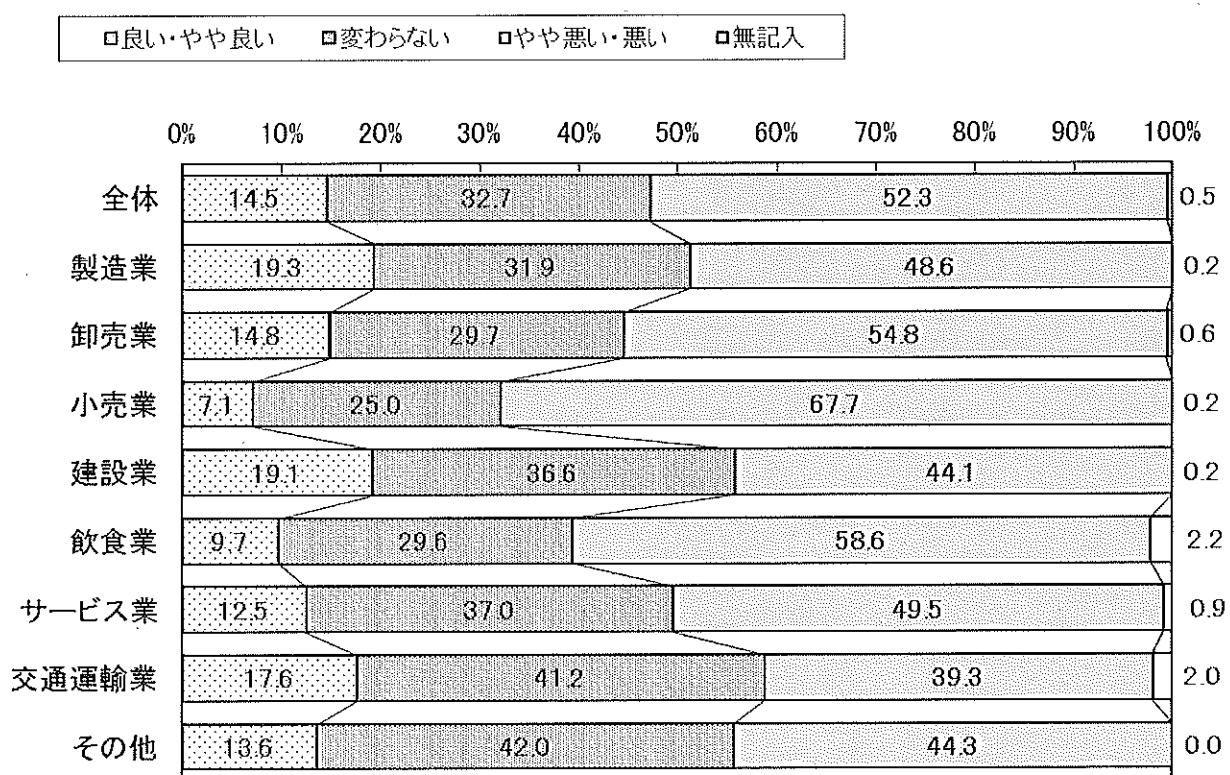


図-2 現状について(全体・地区別)

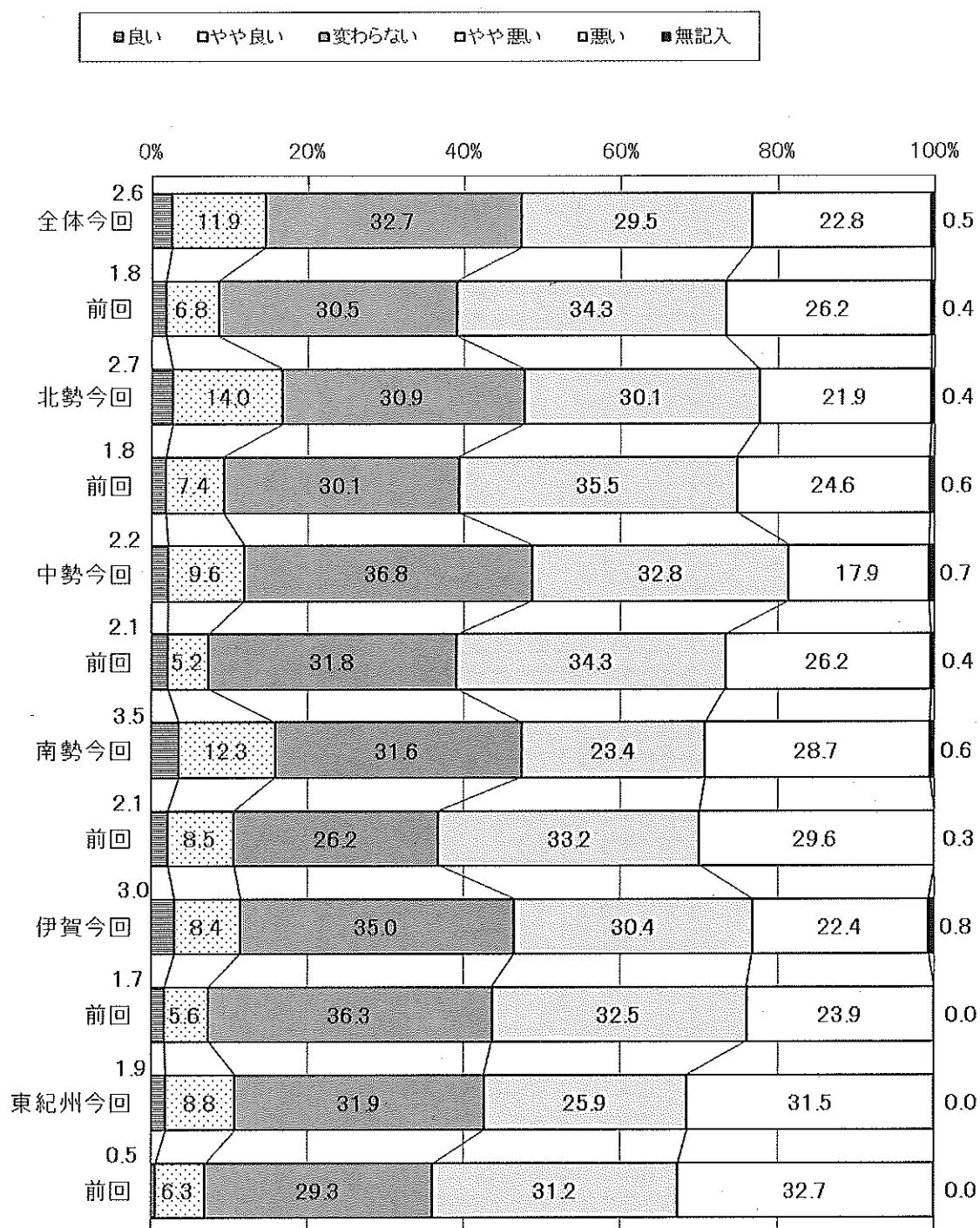
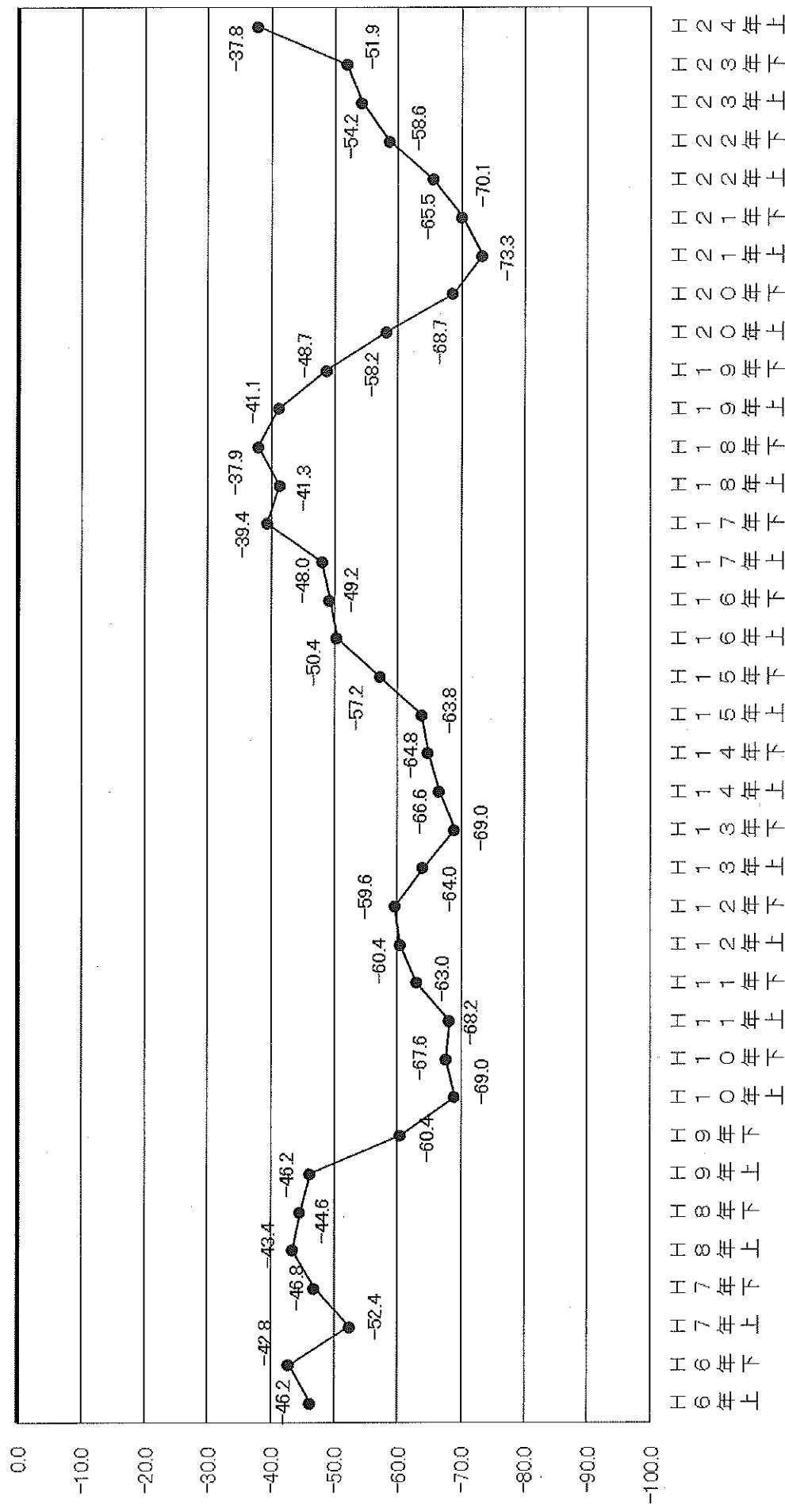


図-3 現況DI値の推移



注) H1 7下期分までの値はBSI値を2倍した数値で表示

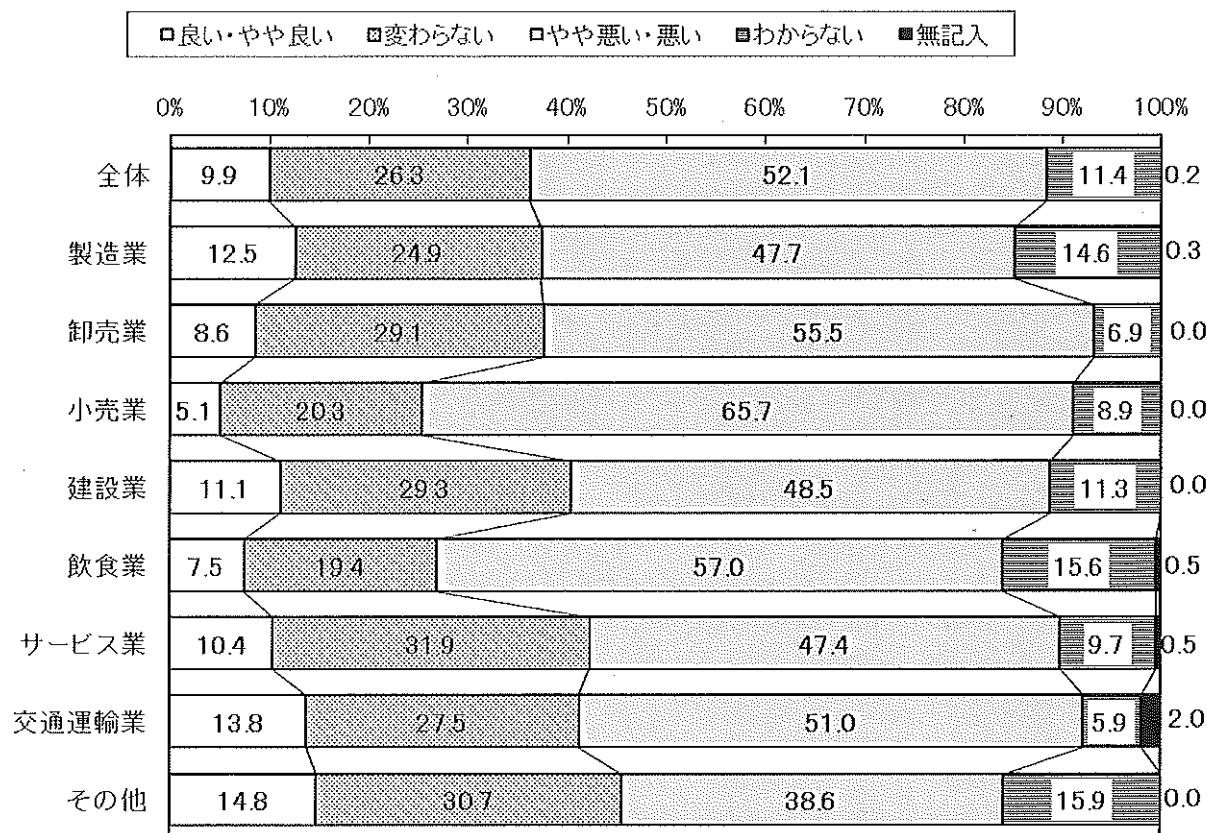
### b) 見通し（図-4参照）

全体の見通しでは、「良い・やや良い」が9.9%に対し、「悪い・やや悪い」は52.1%で、D I 値も△42.2（前回△48.7）となり、6.5 ポイント改善した。

業種別では、D I 値でその他の業種△23.8、製造業△35.2、サービス業△37.0、交通運輸業△37.2、建設業△37.4、卸売業△46.9、飲食業△49.5、小売業△60.6 の順であった。

地区別のD I 値では、北勢地区△41.0、中勢地区△42.8、南勢地区△44.7、伊賀地区△44.7、東紀州地区△42.2 であった。

図-4 今後の見通しについて（業種別）



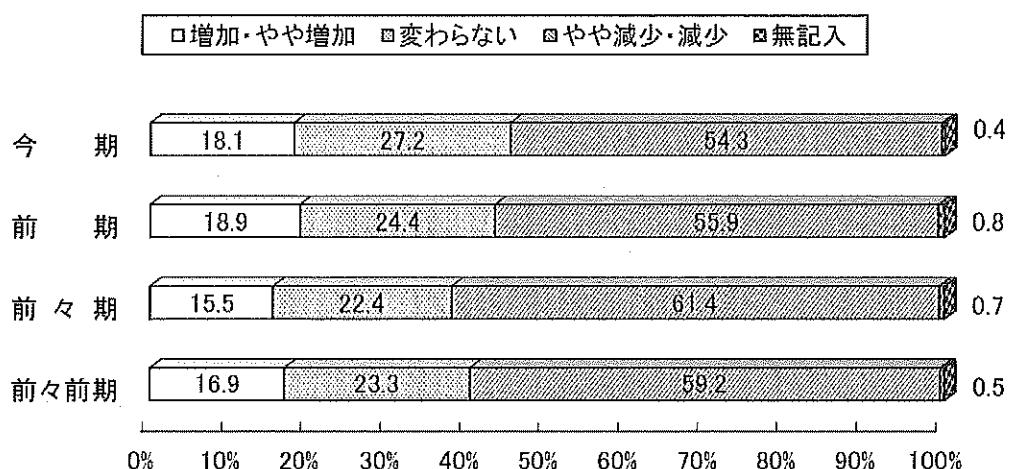
## 2. 最近の売上状況（図-5参照）

全体では、「増加・やや増加」が18.1%（前回18.9%）、「やや減少・減少」が54.3%（前回55.9%）で、D I 値は△36.2（前回△37.0）と、ほぼ横ばいとなった。

業種別では、製造業（5.2 ポイント）、卸売業（2.6 ポイント）、小売業（1.2 ポイント）、その他の業種（2.6 ポイント）で悪化しているが、それ以外の業種では改善している。特に交通運輸業では、△13.7（前回△32.6）と18.9 ポイント改善している。

地区別では、伊賀地区と東紀地区以外の地区で改善しており、特に南勢地区では、△36.0（前回△44.9）と8.9 ポイントの改善となった。

図-5 売上状況

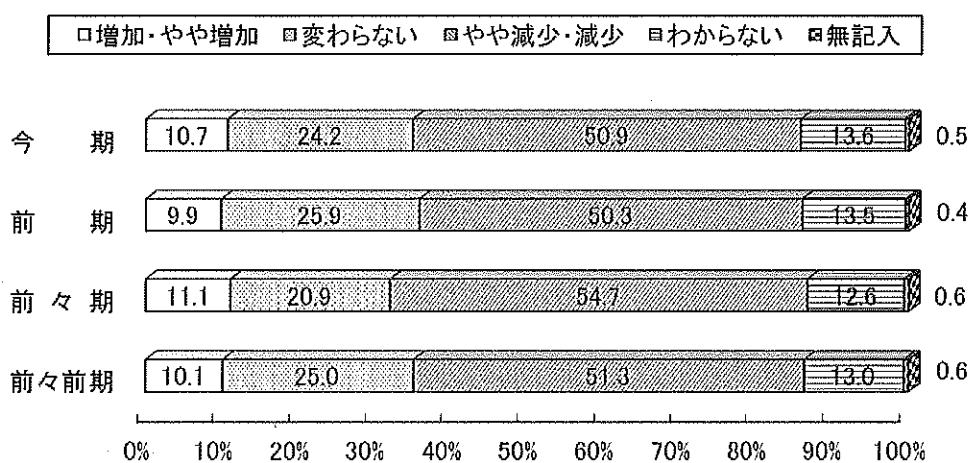


## 3. 今後の売上見通し（図-6参照）

全体では、「増加・やや増加」が10.7%（前回9.9%）、「やや減少・減少」が50.9%（前回50.3%）で、D I 値は△40.2（前回△40.4）と、ほぼ横ばいの見通しとなった。

業種別では、製造業（1.3 ポイント）、卸売業（9.9 ポイント）、小売業（5.6 ポイント）、その他の業種（0.7 ポイント）で悪化しているが、それ以外の業種では改善している。特に建設業では、△33.8（前回△40.6）と6.8 ポイント改善している。地区別では、北勢地区以外の地区でやや改善となった。

図-6 売上見通し



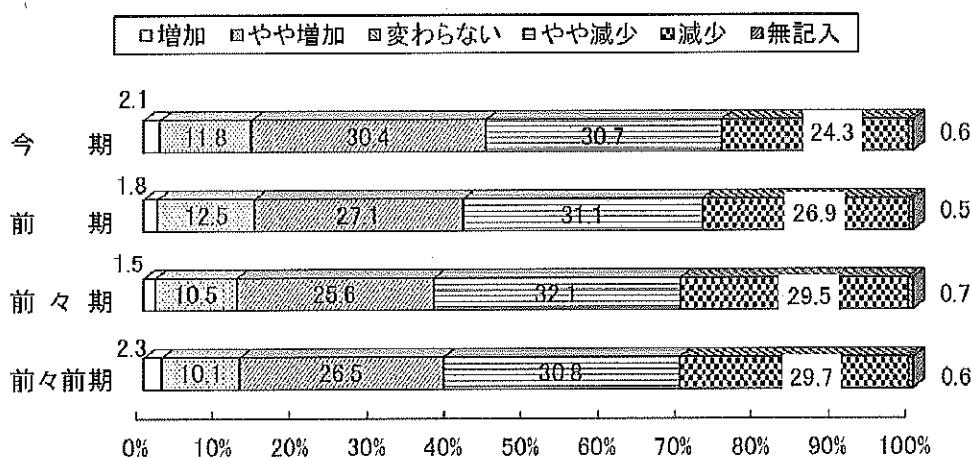
#### 4. 利益状況（図-7 参照）

全体では、「増加・やや増加」が 13.9%（前回 14.3%）、「やや減少・減少」が 55.0%（前回 58.0%）で、D I 値は△41.1（前回△43.7）となり、2.6 ポイントやや改善となった。

業種別では、製造業（0.2 ポイント）、卸売業（0.8 ポイント）、サービス業（1.2 ポイント）でやや悪化しているが、それ以外の業種では改善している。特に交通運輸業では、△33.3（前回△46.6）と 13.3 ポイント改善している。

地区別では、中勢地区と伊賀地区以外の地区で改善しており、特に南勢地区では、△41.8（前回△49.7）と 7.9 ポイントの改善となった。

図-7 利益状況



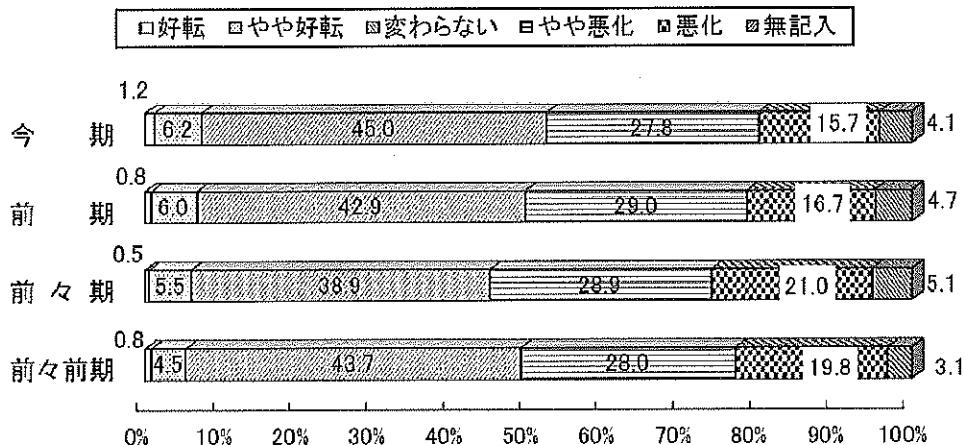
#### 5. 販売条件（図-8 参照）

全体では「好転」、「やや好転」が 7.4%（前回 6.8%）、「やや悪化」、「悪化」は 43.5%（45.7%）で、D I 値は△36.1（前回△38.9）となり、2.8 ポイントやや改善となった。

業種別では、小売業（1.8 ポイント）で悪化、卸売業（△38.3）では前回と同じで、それ以外の業種では改善している。特にその他の業種では、△22.7（前回△31.0）と 8.3 ポイント改善している。

地区別では、中勢地区以外の地区で改善しており、特に伊賀地区では、△30.4（前回△37.1）と 6.7 ポイントの改善となった。

図-8 販売条件



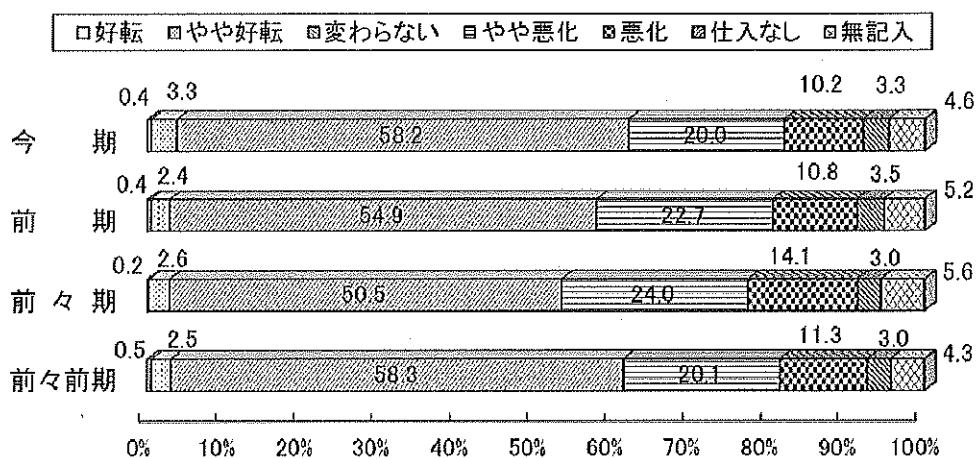
## 6. 仕入条件（図-9参照）

全体では「好転」、「やや好転」が3.7%（前回2.8%）、「やや悪化」、「悪化」は30.2%（33.5%）で、D I 値は△26.5（前回△30.7）となり、4.2 ポイント改善となった。

業種別では、小売業（0.6 ポイント）で悪化、交通運輸業（△37.2）では前回と同じで、それ以外の業種では改善している。特に建設業では、△21.0（前回△31.5）と10.5 ポイント改善している。

地区別では、中勢地区と東紀地区以外の地区で改善しており、特に南勢地区では、△26.0（前回△36.1）と10.1 ポイントの改善となった。

図-9 仕入条件

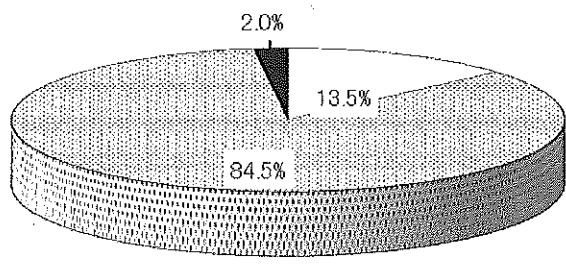


## 7. 設備投資（図-10・11参照）

全体では、設備投資を行った企業は352社、13.5%（前回12.9%）と増加したが、設備投資を予定している企業は259社、9.9%（前回10.6%）と減少した。

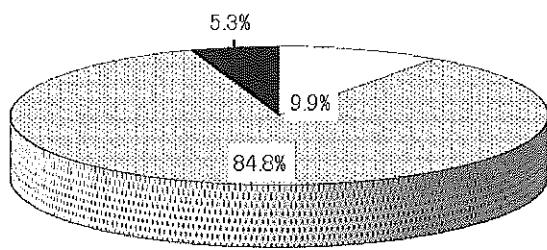
業種別では、交通運輸業が33.3%と他の業種よりも多く設備投資を行った。小売業が9.1%と他の業種よりも低い数値であった。また、地区別では伊賀地区が実績16.9%と最も高く、予定でも伊賀地区が11.8%と最も高くなっている。東紀地区で実績10.2%、予定6.0%と共に最も低い値となっている。

図-10 設備投資の実績



□行った □行わない ■無記入

図-11 設備投資の予定



□予定あり □予定なし ■無記入

## 8. 資金繰り状況と今後の見通し

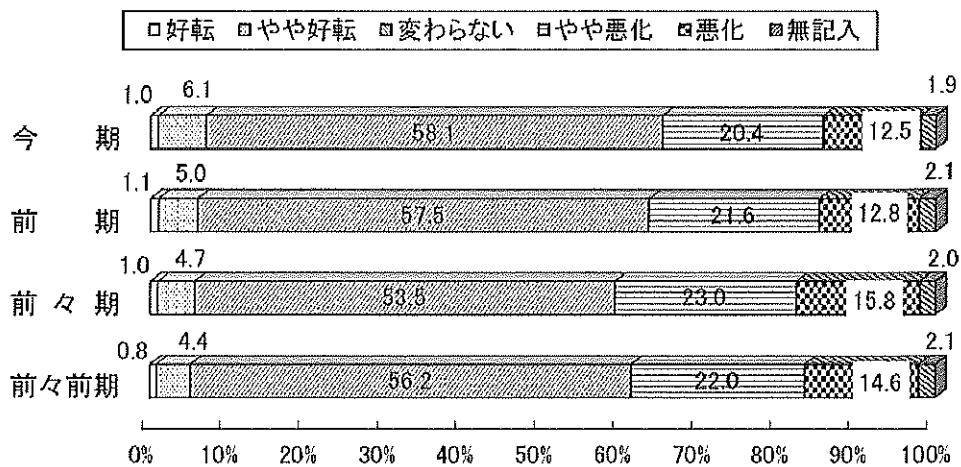
### a) 現状（図-12参照）

全体では「好転・やや好転」が7.1%（前回6.1%）に対し、「悪化・やや悪化」は32.9%（前回34.4%）で、D I 値は△25.8（前回△28.3）となり、2.5ポイントやや改善となった。

業種別では、卸売業で悪化が見られるが、それ以外の業種では改善している。特に建設業では、△21.7（前回△29.1）と8.4ポイント改善している。

地区別では、全ての地区でやや改善が見られ、特に伊賀地区では、△20.3（△24.4）と4.1ポイント改善している。

図-12 資金繰りの現状



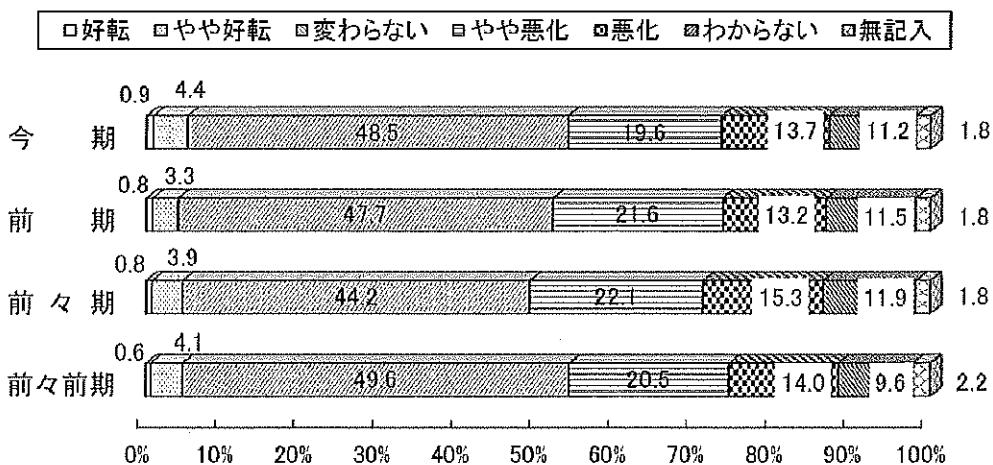
### b) 見通し（図-13参照）

全体では「好転・やや好転」が5.3%（前回4.1%）に対し、「悪化・やや悪化」は33.3%（前回34.8%）で、D I 値は△28.0（前回△30.7）となり、2.7ポイントやや改善の見通しとなった。

業種別では、卸売業と交通運輸業とその他の業種でやや悪化が見られるが、それ以外の業種では改善しており、特に飲食業では、△33.3（前回△40.2）と6.9ポイント改善している。

地区別では、伊賀地区でやや悪化となったが、それ以外の地区では改善し、特に南勢地区では△29.5（△35.1）と5.6ポイント改善している。

図-13 資金繰りの見通し



## 9. 借入状況

### a) 現状

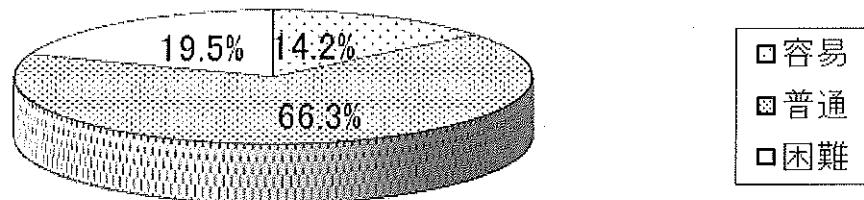
回答企業 2,614 社のうち、借入を実施した企業は、988 社、37.8%（前回 1,040 社、41.2%）であった。

### b) 借入の難易度（図-14・15参照）

全体では、借入を実施した企業のうち、「容易」が 14.2%（前回 13.8%）、「困難」は 19.5%（前回 18.5%）で、D I 値は△5.3（前回△4.7）となり、0.6 ポイント悪化した。

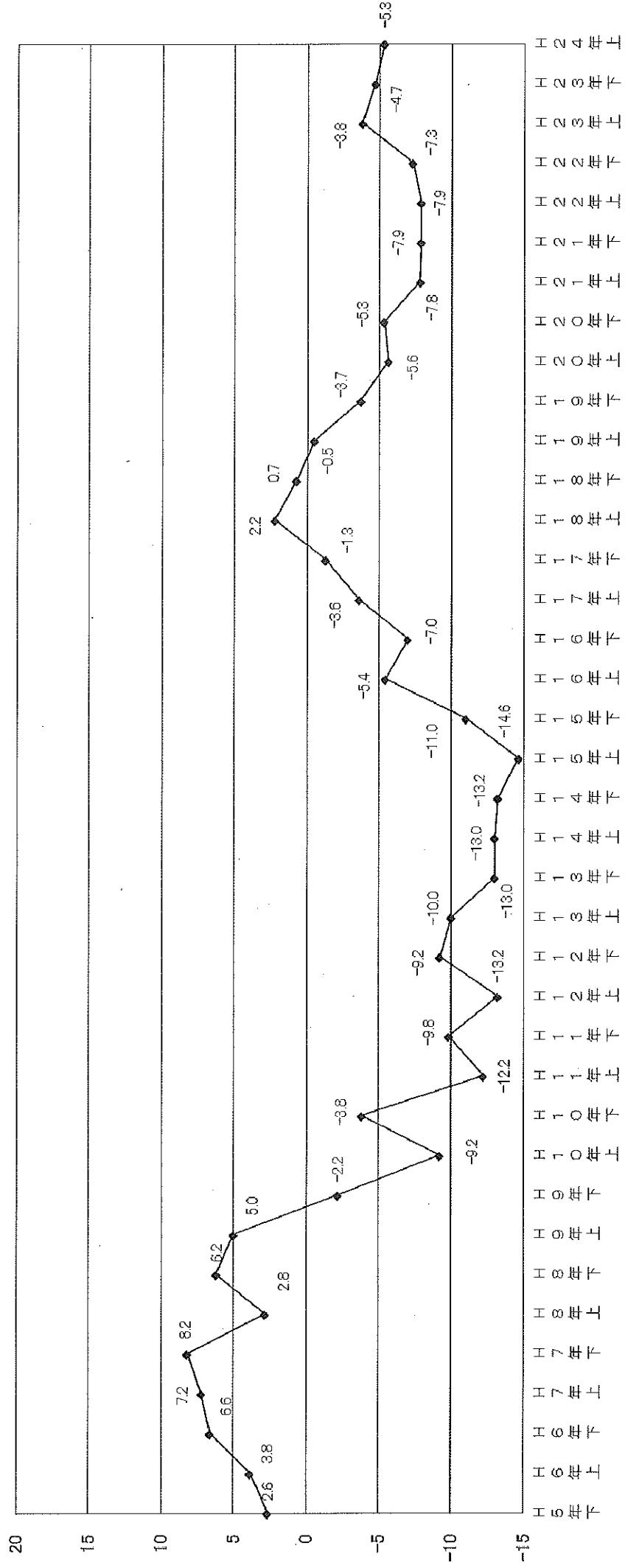
業種別では、建設業と小売業以外は悪化傾向であり、地区別では伊賀地区以外が悪化となった。

図-14 借入の難易度



注) H17下期分までの値はBSI値を2倍した数値で表示

図-15 借入の難易度DI値の推移

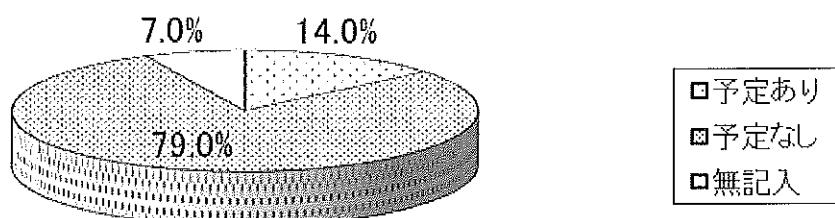


## 10. 借入予定（図-16参照）

全体では、回答企業 2,614 社中、借入を予定している企業は 366 社（前回 375 社）、14.0%（前回 14.8%）であった。

業種別では、交通運輸業で 23.5% と最も高く、最も低かったのはサービス業の 9.7% であった。また地区別では、伊賀地区が 15.2% と最も高く、東紀地区が 12.0% と最も低かった。

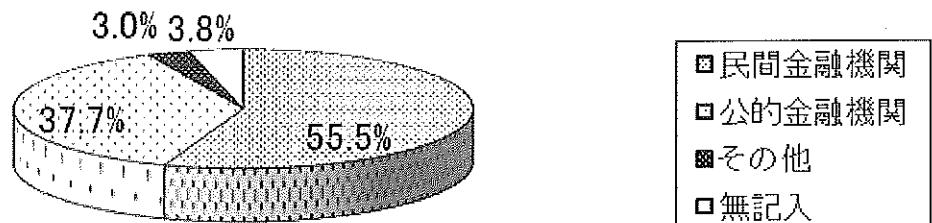
図-16 借入予定



## 11. 借入希望先（図-17参照）

借入を予定している企業のうち、「民間金融機関」が 55.5%（前回 55.7%）、「公的金融機関」は 37.7%（前回 38.9%）である。「民間金融機関」と「公的金融機関」共に若干減少している。

図-17 借入希望先

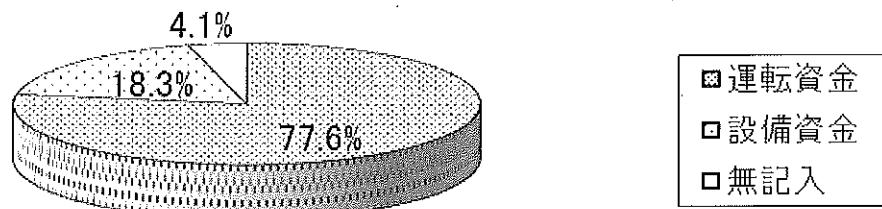


## 12. 借入金の使途予定（図-18参照）

全体では、借入を予定している企業のうち、「運転資金」が 77.6%（前回 74.4%）に対し、「設備資金」は 18.3%（前回 23.2%）であった。

業種別では、「運転資金」で建設業が 90.2%、一方、「設備資金」では飲食業が 47.6%と最も高くなつた。

図-18 借入の使途予定



## 13. 経営上の問題点（表-1参照）

全体では、「売上・受注の停滞減少」 60.2%（前回 61.5%）、「競争激化」 33.7%（前回 33.9%）、「製品・商品単価の下落」 18.7%（前回 20.1%）の順となっている。

業種別でも全ての業種で「売上・受注の停滞減少」の回答が最も多いかった。製造業、交通運輸業以外の 2 番目の問題点には「競争激化」の回答が多く、問題点の 3 番目は業種によって違いがみられた。

表-1 経営上の問題点(3項目以内複数回答)

区分	第1位	第2位	第3位
業種別	製造業 売上・受注の停滞減少 (62.5)	製品・商品単価の下落 (30.5)	競争激化 (21.7)
	建設業 売上・受注の停滞減少 (58.9)	競争激化 (44.3)	人材育成 (20.3)
	卸売業 売上・受注の停滞減少 (72.6)	競争激化 (39.4)	製品・商品単価の下落 (22.3)
	小売業 売上・受注の停滞減少 (71.3)	競争激化 (39.8)	製品・商品単価の下落 (21.7)
	飲食業 売上・受注の停滞減少 (54.3)	競争激化 (29.6)	設備店舗の狭小老朽化 (29.0)
	サービス業 売上・受注の停滞減少 (47.9)	競争激化 (33.8)	設備店舗の狭小老朽化 (22.9)
	交通運輸業 売上・受注の停滞減少 (54.9)	人件費以外の経費増加 (33.3)	競争激化 (27.5)
	その他 売上・受注の停滞減少 (39.8)	競争激化 (21.6)	人材育成 (15.9)
地区別	北勢 売上・受注の停滞減少 (57.6)	競争激化 (35.8)	製品・商品単価の下落 (20.7)
	中勢 売上・受注の停滞減少 (65.2)	競争激化 (37.3)	製品・商品単価の下落 (18.5)
	南勢 売上・受注の停滞減少 (63.7)	競争激化 (28.1)	設備店舗の狭小老朽化 (18.4)
	伊賀 売上・受注の停滞減少 (58.2)	競争激化 (33.8)	人材育成 (17.3)
	東紀州 売上・受注の停滞減少 (59.3)	競争激化 (20.8)	設備店舗の狭小老朽化 (17.1)
総合		競争激化 (33.7)	製品・商品単価の下落 (18.7)

## 県下商工会議所地域の景況

### ○桑名商工会議所地域

#### 現 状

全体では、「良い・やや良い」との回答が 16.1%、「変わらない」が 32.8%、「やや悪い・悪い」が 50.7%、D I 値は△34.6（前回△54.9）で、前回調査と比べて 20.3 ポイントと大幅に回復しているが、依然厳しい状態が続いている。

#### 見 通 し

今後の見通しについては、「良い・やや良い」との回答が 10.2%、「変わらない」が 24.9%、「やや悪い・悪い」との回答は 52.1%、D I 値は△41.9（前回△48.9）となり、現状のD I 値と比べてマイナス 7.3 ポイントと若干悪化すると見込まれている。

#### 目立った変化等

景気の現状を示すD I 値は前回調査よりも回復しており、それまで 4 期連続で回復していた前年同期（△44.7）と比べても回復している。また、業種別でみてもすべての業種で回復しており、特に建設業は 40.2 ポイント大幅に回復している。ただ、見通しについては今期より悪化する見込みであり、先行きの不安感が現れているものと思われる。

経営上困っている問題点については、相変わらず「売上・受注の停滞減少」との答えが最も多く、次いで「競争激化」「製品・商品単価の下落」の順であった。

### ○四日市商工会議所地域

#### 現 状

「良い・やや良い」が 20.2%（前回 11.9%）、「変わらない」が 30.1%（前回 30.4%）、「やや悪い・悪い」が 49.2%（前回 56.0%）となり、現状D I 値は△29.0 で前回値の△44.1 より、15.1 ポイントの改善を示す結果となった。

業種別に前回値と対比すると、製造業・建設業・卸売業・小売業で改善傾向が見られた。

#### 見 通 し

「良い・やや良い」が 13.9%、「変わらない」が 26.0%、「やや悪い・悪い」が 50.8% となり、D I 値は△36.9（前回△42.9）との結果であった。この値と今期調査で得た「経営状況の現状」におけるD I 値△29.0 とを比較すると、D I 値は 7.9 ポイント下がり、現状と比較すると慎重な見方をする企業が多い結果となった。

業種別に前回見通し値と対比すると、製造業・建設業・卸売業・サービス業のD I 値は緩やかに改善する見通しとなった。

#### 目立った変化等

全体としては、現状についてのD I 値が前年同期値と比較して、サービス業を除く全業種で改善、サービス業も小幅なマイナスに留まった。中でも建設業と卸売業のD I 値はそれぞれ 25.5、44.3 ポイントの上昇が見られた。また最近の売上状況について、製造業と建設業の中には、D I 値が 0 を上回りプラスとなる業種も見られた。

一方、経営上の問題点では、「売上・受注の停滞減少」(58.3%)、「競争激化」(37.6%)、「製品・商品単価の下落」(18.8%) の順で前回調査に引き続き上位を占め、特に、「売上・受注の停滞減少」の回答割合が約 6 割と依然多い。また、「設備店舗の狭小老朽化」(8.0%) が前回より 5.2% 増加した。

逆に、「原材料高および不足」を問題として捉えている企業は、6.4% (前回 10.6%) と減少した。

## ○鈴鹿商工会議所地域

### 現 状

対象 959 社 回答 346 社 回答率 36.1%。「良い・やや良い」と答えた企業が 15.4% と (前回 10.6% : 前年同期 9.4%)、「やや悪い・悪い」と答えた企業は 56.4% と (前回 61.0% : 前年同期 67.4%)。また、D I 値が△41.0 と (前回 50.4 : 前年同期△58.0) と前年同期より 17.0 ポイント改善している。

現状について、前年同期に比べやや改善傾向にある。

### 見 通 し

「良い・やや良い」と答えた企業が 7.3% と (前回 7.0 : 前年同期 7.6%)、「やや悪い・悪い」と答えた企業は 52.3% と (前回 55.8% : 前年同期 55.9%)。また、D I 値が△45.0 と (前回 48.8 : 前年同期△48.3) と前年同期より 3.3 ポイント改善している。

今後の見通しについて、改善傾向にあるが、大幅に改善する見通しではない。

### 目立った変化等

経営上の問題点として、今期では「売上・受注の停滞減少」56.6%、「競争激化」36.1%、「製品・商品単価の下落」22.8% の順で上位を占めた。前年同期の調査では、1 位は「売上・受注の停滞減少」で 63.0%、2 位は「競争激化」で 36.5%、3 位が「製品・商品単価の下落」で 18.3% となっており、この 3 つが上位を占めている。

近年では、「売上・受注の停滞減少」と「競争激化」が上位を占めており、同業者との競争により顧客の奪い合いや単価の下落などが、「売上・受注の停滞減少」に繋がっていると推察される。

## ○ 亀山商工会議所地域

### 現 状

全体では、「良い・やや良い」が 12.0% (前年同期 8.4%)、「やや悪い・悪い」が 53.0% (前年同期 58.9%) となり、D I 値は△41.0 で、前年同期△50.5 より 9.5 ポイント、

前期△63.2と比べて22.2ポイントと好転しているという結果となった。

## 見通し

全体では、「良い・やや良い」が12.0%（前年同期6.6%）、「やや悪い・悪い」が49.5%（前年同期58.8%）となり、DI値は△37.5で、前年同期△52.3より14.8ポイント好転しており、前期（△51.3%）と比べても、13.8ポイント好転している。だが、業種別で見ると、前期と比べ建設業に悪化の傾向が見られる。

## 目立った変化等

経営上困っている問題点としては、前回同様「売上・受注の停滞減少」が58.8%と最も多く、続いて2位が「競争激化」（27.4%）、3位が「製品・商品単価の下落」（20.5%）となっている。業種別で見ても、どの業種も「売上・受注の停滞減少」を1番の問題としている。

## ○津商工会議所地域

### 現状

「良い・やや良い」が16.9%（前回7.5%：前年同期12.0%）、「やや悪い・悪い」が44.3%（前回61.5%：前年同期63.0%）、DI値が△27.4（前回△54.0：前年同期△51.0）と前年同期より23.6ポイントマイナス幅が減少する結果となった。

業種別では小売業で若干の悪化傾向が見られたが、その他全ての業種で改善が見られた。特に卸売業では前回から35.4ポイント良化した。

## 見通し

「良い・やや良い」が11.9%（前回4.6%：前年同期15.0%）、「やや悪い・悪い」が46.6%（前回53.0%：前年同期57.0%）、DI値は△34.7（前回△48.4：前年同期△42.0）と前年同期より7.3ポイントマイナス幅が減少する見通しとなっている。業種別では製造業で29.9ポイントマイナス幅が減少する見通しが見られる。また、卸売業ではやや悪化、サービス業では横ばいの数値を示している。

## 目立った変化等

経営上の問題点としては、「売上・受注の停滞減少」が最も多く66.7%となった。次いで「競争激化」39.3%、「製品・商品単価の下落」20.1%となった。前回と比較すると順位の変化はないものの「売上・受注の停滞減少」では今期は1.4ポイント低下し、「人材育成」で2.3ポイント上昇、「設備店舗の狭小老朽化」で3.3ポイント上昇と注視する問題点が分散している傾向が見られる。

業種別に見ると、どの業種も「売上・受注の停滞減少」を最も困っている問題として捉えている。

## ○松阪商工会議所地域

### 現状

全体では「良い・やや良い」が8.4%（前回7.2%）、「やや悪い・悪い」が54.9%と（前回59.8%）となり、D I 値は△46.5（前回△52.6）で前回に比べ6.1ポイント改善しているという結果となった。業種別に見ると製造業、建設業、小売業、サービス業が改善となった、特にサービス業は19.9ポイントと大幅に改善されたが、卸売業では悪化が見られた。

## 見 通 し

全体では「良い・やや良い」が6.9%（前回7.3%）、「やや悪い・悪い」が54.9%と（前回57.1%）となり、D I 値は△48.0（前回△49.8）で前回に比べ1.8ポイント改善の見通しとなっている。業種別では製造業では悪化を示したが、それ以外の業種では改善の見通しとなっている。

## 目立った変化等

経営上困っている問題点として、前回と同様「売上・受注の停滞減少」が最も多く、2位は「競争激化」、3位は「設備店舗の狭小老朽化」という結果となった。

## ○伊勢商工会議所地域

### 現 状

全体では「良い・やや良い」が16.1%（前回12.0%）、「やや悪い・悪い」が48.2%（前回59.1%）、D I 値△32.1（前回△47.1）と前回に比べ15.0ポイント改善している。

業種別では、飲食業で悪化しているが、製造業、卸売業、サービス業、小売業で改善が見られ、中でも食品製造業を中心に製造業は前回に比べ35.5ポイントと大きく改善している。また、卸売業においても23.4ポイント改善している。

## 見 通 し

全体では「良い・やや良い」が10.3%（前回7.4%）、「やや悪い・悪い」が53.1%（前回50.9%）、D I 値△42.8（前回△43.5）と前回より0.7ポイントやや好転している。

業種別では、飲食業が悪化の見通しであるが、建設業、卸売業、サービス業、製造業、小売業では改善の見通しとなっている。

## 目立った変化等

経営上の問題点として、全体では前回に引き続き、「売上・受注の停滞減少」が63.0%と最も多く、次いで「競争激化」29.2%、「設備店舗の狭小老朽化」15.6%の順となっている。

業種別でも、全業種で「売上・受注の停滞減少」が第1位となっている。その他で目立った項目として、「競争激化」の割合が製造業以外で前回に比べて高くなっている。

## ○鳥羽商工会議所地域

## 現 状

全体では「良い」・「やや良い」があわせて16.3%、「やや悪い」・「悪い」があわせて61.8%、D I 値△45.5（前期△56.5、前々期△75.3）と前期よりも改善している。業種別では、建設業が13.4（前期△73.7）と大きく改善している。

## 見 通 し

今後の見通しについては、「良い」・「やや良い」との回答は6.4%、「やや悪い」・「悪い」の回答については56.4%（前期61.3%）。D I 値は△50.0（前期△57.4）で、前期より7.4ポイント改善している。業種別では製造業、サービス業、ホテル・旅館業を除く業種が改善している。

## 目立った変化等

最近の売上状況ではD I 値△47.3（前期△54.3）と7.0 ポイント改善しており、売上の見通しについてもD I 値△50.9（前期△50.4）とわずかであるが0.5 ポイント改善する見通しとなった。利益状況についてもD I 値△52.8（前期△59.7）と前期に比べ6.9 ポイント改善している。経営上困っている問題では、「売上・受注の停滞減少」「設備店舗の狭小老朽化」「競争激化」が前回と引き続き問題点の上位となっている。

## ○上野商工会議所地域

### 現 状

全体では、「良い・やや良い」が10.6%（前回5.7%）、「やや悪い・悪い」が59.0%（前回55.0%）、D I 値が△48.4（前回△49.3）で、ほぼ横ばいを示す結果となった。

業種別に前回値と対比すると、建設業・卸売業で数値が改善する一方、小売業・飲食業・サービス業では前回値を下回り、製造業は変わらない結果となった。

### 見 通 し

全体では、「良い・やや良い」が7.6%（前回4.3%）、「やや悪い・悪い」が54.6%（前回53.6%）で、D I 値は△47.0（前回△49.3）となり2.3 ポイントの改善の見通しとなった。

業種別では、製造業・建設業・小売業・飲食業が改善の見通しとなったが、卸売業・サービス業は悪化する見通しとなった。

### 目立った変化等

経営上困っている問題点としては、前回と同様、「売上・受注の停滞減少」が65.2%と最も多く、2位は「競争激化」が31.8%、3位は「製品・商品単価の下落」が24.2%と引き続き同じ順位になっている。

## ○名張商工会議所地域

### 現 状

全体では「良い・やや良い」が11.7%、「やや悪い・悪い」が50.3%で、D I 値は

△38.6（前回△49.0）となり、前回より10.4ポイント改善した。

### 見通し

全体では「良い・やや良い」が10.6%、「やや悪い・悪い」が54.4%で、D I値は△43.8（前回△55.7）となり、前回より11.9ポイント改善の見通しとなった。

### 目立った変化等

経営上困っている問題として「売上・受注の停滞減少」が55.6%で最も多く、次いで「競争激化」が34.5%で2位となり、1位と2位については前回と同様の結果であるが、3位には、人材育成が19.9%で前回の5位から浮上した。前回3位の製品・商品単価の下落は5位という結果。

## ○尾鷲商工会議所地域

### 現状

回答171社中、「良い・やや良い」が10.6%（前回6.5%）に対し、「やや悪い・悪い」53.8%（前回61.5%）で、現状D I値は△43.2となり、前回（△55.0）と比較して11.8ポイント改善した。

### 見通し

「良い・やや良い」が10.6%、「やや悪い・悪い」が48.0%、D I値は△37.4で、前回調査時の見通し（△44.4）より7.0ポイントの改善している。

### 目立った変化等

経営上困っている問題点として「売上・受注の停滞減少」（今回60.8%）で最も多く、次いで「競争激化」（19.9%）で2位、「設備店舗の狭小老朽化」が15.8%となり、前回の4位から今回3位となった。1位と2位は前回同様の結果。

## ○熊野商工会議所地域

### 現状

「良い・やや良い」が11.9%（前回11.5%）、「悪い・やや悪い」が67.7%（前回67.3%）と23年度下期にくらべほとんど変化はない。D I値も△55.9（前回△55.8）となりほとんど変化はなかった。業種別に見ても概ね変化はない。

### 見通し

「良い・やや良い」が10.2%（前回3.8%）と6.4%の改善傾向となっており、「悪い・やや悪い」が64.4%（前回65.6%）と若干改善されている、D I値も△54.2（前回△61.6）となり、現状に比べて改善が見られたが、依然として今後の見通しはあまり明るくない。

### 目立った変化等

D I値は、現状、見通し共に全体の数値としては良化しているが、依然厳しい状態が続いている。業種別に見ると、建設、飲食業共に悪化しているが、卸売、小売が若

干改善されている。

上記を考察すると、昨年9月の12号台風後の建設関係の需要が落ち着き、昨年度上期と同じ環境に戻ったと考えられる。